

## 講座受講生のビフォーアフター（第3回）

青森市立荒川小学校 学校支援コーディネーター  
鈴木 早知子さん 八木澤 佳子さん

平成26年度「学校と地域の協働実践セミナー」受講生

# 人を覚えてつながっていくのが すごく楽しかった！



（鈴木さん）

（八木澤さん）

Q なぜこの講座を受講しようと考えましたか？

八木澤：約2年半前に勤めていた会社を辞め、それまで関わることでできなかった小学校のPTA等の活動に参加してみたいと思い、まずは図書ボランティアに参加しました。その後、学校支援コーディネーターを引き受けることになりましたが、それまでボランティアとかセミナーとか家庭と地域などについて考えたこともなく、まずは**多くの方のお話を聞いてみなければならぬ**と思い、受講しました。

鈴木：コーディネーターとして学校とPTAと地域との橋渡し役になったけれど何をすればよいのかよくわからなくて、様々な講座のチラシなどに「学校支援コーディネーター」と書いていけば、行きたいという気持ちよりは行かなければいけないという**義務感の方が強かったです**。



Q 講座の受講前後で、何か変わりましたか？

八木澤：学校と地域の関わり方について考えるようになり、その延長で町内会の活動にも参加するようになりました。**自分の方から関わっていきたい**なという気持ちになりました。

鈴木：講座の中で学校支援コーディネーターのベテランの方の話を聞いて、**コミュニケーションが大事**なんだなと感じました。また、PTAの延長で関わっているのではなく、**学校とPTA、地域の人達の間にいるのだ**という自分達の立ち位置を確認することができました。

Q 講座を受講した後で、講座内容を参考にして実践したことについて教えてください。

八木澤：「チラシをつくろう」という講座で教わったことを参考にして、学校支援ボランティアについての地域・保護者向けのチラシを作りました。講座に参加した人のチラシをいろいろと参考にしながら、**見やすいように、手にとって読んでいただけるように**気をつけました。

鈴木：1回目のセミナーで「コーディネーターは**学校のお客様ではない**。学校のスリッパを履かない。自分の履き物を持ってきなさい。」と聞いて、これが心構えなのかなと考えました。学校支援コーディネーターはお客様ではなく、学校との橋渡しの役目なんだということ意識できるようになりました。

Q 今後してみたいことは？

八木澤：セミナーの「アイスブレイク」で教わった年齢に関係なくみんなが交流できるものを、学校と地域との交流会でやってみたいです。

鈴木：様々な人に学校に来ていただいて学校支援活動に参加していただきたいです。ボランティア通信をつくり、具体的な活動内容を知らせていきたいです。いろんな人達が活動に参加して交流できれば、**子ども達も楽しく充実できる**のではないかと、何か感じてくれるのではないかと考えています。

Q これから講座を受講したいと思っている人へのメッセージをお願いします。

八木澤：人前で話すのが苦手で、人との関わりが苦手な私が、様々な講座を受講することで、コミュニケーションのとり方、学校・地域への働きかけ方を学ぶことができて、少しずつ実践できるようになりました。学校や地域とどう関わっていけばいいのか、あまり難しく考えずにまずは**いろいろな人のお話を聞いてみたらいい**のかなと思います。



鈴木：何でも参加してみれば、自分のためになることが必ずあって、いろいろな部分で繋がりができてくるし、自分の力もついてくるし、気づきにもなります。悩んでいることがあっても、人と繋がっていて、話をしているうちに解決できることがたくさんありました。講座を通して**人を覚えてつながっていくのがすごく楽しかった**。だから、何にでも参加してみるのはいいことだと思っています。